

# 2026信州大学 二次解答分析速報

教科: 

数学

学部: 

工

 学科(課程・専攻): 

工(全)

入試区分 

前期

 試験時間: 

120

 分

## 〈全体分析〉

解答形式: 

☐ 分量 減少

☐ 難易 易化

☐ 分量 やや減少

☐ 難易 やや易化

☒ 分量 変化なし

☐ 難易 変化なし

☐ 分量 やや増加

☒ 難易 やや難化

☐ 分量 増加

☐ 難易 難化

出題の特徴: 

ベクトル、確率と微積分2問というのが例年の標準的な出題パターン。

その他トピックス: 

例年に比べて微積分の出題が非常に多く、ベクトルの問題がなかった。

## 〈大問分析〉

| 問題 | 区分・範囲 | 項目・テーマ・出典 | 内容・形式<br>(選択・記述・論述など) | 難易度 | コメント                                                       |
|----|-------|-----------|-----------------------|-----|------------------------------------------------------------|
| 3  | 数Ⅱ    | 整関数の微分    | 3次方程式の解               | 普   | 頻出・標準のパターン問題ではあるが、後半の計算処理がしっかりできないと苦しい。                    |
| 4  | 数A    | 確率        | 完全順列の変形               | やや難 | 共通テストでも出題された「完全順列」の変形パターン。ていねいな場合分けが必須で、その方法によってはかなり面倒となる。 |
| 5  | 数Ⅲ    | 微分        | 微分の不等式への応用            | 普   | 数Ⅲにおける微分の頻出応用問題。同様の問題に当たったことが必ずあるはず。                       |
| 6  | 数Ⅲ    | 微分・積分     | 関数の極値・定積分と不等式         | 難   | (1)はたまに見るタイプ。(2)はグラフから視覚的には明らかだが、それを数式で表現するのは難しい。          |

## 〈学習対策〉

例年、2問完答が目標となるが、今年のセットはそれがやりにくかったと思われる。完答できないまでも、部分点で確実に稼げるように、幅広く標準問題の演習を重ねておくこと。

# 2026信州大学 二次解答分析速報

教科: 物理・物理基礎

学部: 教育・理・工・繊維・農 学科(課程・専攻): 教育(理、も)・理(物理)・工(全)・繊維(全)・農(全)

入試区分 前期

試験時間: 90 分

## 〈全体分析〉

解答形式:

☐ 分量 減少

☐ 分量 やや減少

☒ 分量 変化なし

☐ 分量 やや増加

☐ 分量 増加

☐ 難易 易化

☐ 難易 やや易化

☒ 難易 変化なし

☐ 難易 やや難化

☐ 難易 難化

出題の特徴: 出題分野・出題形式共に前年度と同様であった。解答は基本的に答えのみで記述はない。描図問題が力学で出された。

その他トピックス: 熱力学④で必要な物理量を自分で設定する必要がある。計算が煩雑な問題が出題されていることも例年通りである。

## 〈大問分析〉

| 問題 | 区分・範囲 | 項目・テーマ・出典              | 内容・形式<br>(選択・記述・論述など)             | 難易度 | コメント                                                                                          |
|----|-------|------------------------|-----------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 力学    | 力と仕事、運動方程式、剛体の静止条件     | バネの付いた直方体の運動に関する典型問題              | 普   | 剛体の滑り、回転を扱う典型問題である。スピーディーに解きたい。                                                               |
| 2  | 波動    | ホイヘンスの原理と反射・屈折の法則、薄膜干渉 | 反射の法則と屈折の法則を素元波の理論を用いて証明する。       | やや易 | 入試頻出問題、図が少々複雑なので、問題の流れにうまく乗ることができるかがポイント                                                      |
| 3  | 電磁気   | コンデンサーの基本とダイオードの入った回路  | 誘電体が入ったコンデンサーの電場や電気容量を考えさせる。      | やや難 | 誘電体の比誘電率を用いずに論じる問題なのでむずかしく感じた受験生もいたと思われる。                                                     |
| 4  | 熱力学   | 熱力学の第1法則熱サイクル          | バネで連結されたピストンにより封入された気体の状態変化に関する問題 | 難   | 問題本文中に、大気圧やバネの自然長に関する記述がないので、自分で設定する必要がある。最初の問題がうまく通過できないと後が苦しくなる。問題の分量も多く、計算も煩雑でけっこう重い問題である。 |

## 〈学習対策〉

毎年、各分野からまんべんなく出題される。(熱力学の代わりに原子分野が出題されることもある。)問題のレベルは標準的であるが、一部難易度の高い問題が出題される。まず標準的な問題集を用いて基本事項をしっかりマスターしよう。その後、長文問題に慣れること、煩雑な計算もしっかりとこなせる計算力をつけよう。グラフなど描図問題への対策もしておこう。

# 2026信州大学 二次解答分析速報

教科: 化学・化学基礎

学部: 教育・理・工・繊維・農 学科(課程・専攻): 教育(理、も)・理(化学)・工(物質化学)・繊維(全)・農(全)

入試区分 前期

試験時間: 90 分

## 〈全体分析〉

解答形式:

☐ 分量 減少

☐ 分量 やや減少

☒ 分量 変化なし

☐ 分量 やや増加

☐ 分量 増加

☐ 難易 易化

☐ 難易 やや易化

☒ 難易 変化なし

☐ 難易 やや難化

☐ 難易 難化

出題の特徴: 電気分解の問題が出題された。やや論述問題が多かった。

その他トピックス: 油脂・高分子の計算が出題された。

## 〈大問分析〉

| 問題 | 区分・範囲 | 項目・テーマ・出典                                           | 内容・形式<br>(選択・記述・論述など) | 難易度 | コメント                                                 |
|----|-------|-----------------------------------------------------|-----------------------|-----|------------------------------------------------------|
| 1  | 理論・無機 | 金属結合<br>Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> の反応式<br>結晶格子 | 用語、計算<br>論述、反応式       | 易   | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> の化学反応式、結晶格子の計算等標準的な内容 |
| 2  | 理論    | アルミナの溶解塩電解<br>陽イオン交換膜                               | 用語、計算、論述              | 普   | 内容は典型的な電気分解の問題であった。やや字数の多い論述式の問題が出題された。              |
| 3  | 有機    | 油脂、せっけん<br>エステル構造決定                                 | 用語、構造式、計算、論述          | 普   | 油脂の標準的な内容の問題。エステルの構造決定も基本的な内容であった。                   |
| 4  | 有機    | 高分子                                                 | 用語、正誤、計算              | 普   | ポリ乳酸とS、B、Rの計算問題が出題された。                               |

## 〈学習対策〉

標準レベルの問題集をしっかりと理解すること。論述式の問題が多いので普段から論述問題を解いた後ノートにまとめておくなど工夫をするとよい。

# 2026信州大学 二次解答分析速報

教科: 生物・生物基礎

学部: 教育・理・繊維・農 学科(課程・専攻): 教育(理、も)・理(生物)・繊維(先、機、応)・農(全)

入試区分 前期

試験時間: 90 分

## 〈全体分析〉

解答形式: 記述式

☐ 分量 減少

☐ 難易 易化

☐ 分量 やや減少

☐ 難易 やや易化

☒ 分量 変化なし

☐ 難易 変化なし

☐ 分量 やや増加

☒ 難易 やや難化

☐ 分量 増加

☐ 難易 難化

出題の特徴: 例年通り、生物・生物基礎の全範囲から幅広く出題されている。出題形式も化学反応式や計算過程など多様。教科書に記載のある基本的な問題が多いが、「コラム」や脚注などの細かな内容の出題もある。知識問題が多く、実験考察型の出題は少ない。

その他トピックス: 論述式の問題は9問 60、120、60、200、120、100、60、40、140の計900字で昨年度から倍増した。(昨年度は5問200字×2、30字×3 計490字)。他に計算過程が2問、化学反応式が1問。論述量が増加したためやや難化としたが、一昨年度以前の状況に戻った状態。

## 〈大問分析〉

| 問題 | 区分・範囲  | 項目・テーマ・出典    | 内容・形式<br>(選択・記述・論述など)            | 難易度 | コメント                                                                       |
|----|--------|--------------|----------------------------------|-----|----------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 遺伝子・進化 | 突然変異・かま状赤血球症 | 知識問題<br>論述問題60・120字              | やや難 | 突然変異に関する穴埋めと論述。かま状赤血球症の発症頻度がアフリカで高い理由の論述。遺伝病の遺伝子頻度、発症頻度に関する計算。             |
| 2  | 細胞と分子  | 生体物質・タンパク質   | 知識問題<br>論述問題60・200字              | 標準  | 特定の元素の生体内での役割。特定の物質の細胞膜における輸送方法。リン脂質の構造。酵素のはたらきに関する論述                      |
| 3  | 代謝     | 光合成          | 知識問題・化学反応式・計算問題<br>論述問題120字      | 標準  | 光合成に関する知識問題と反応式。陽生植物と陰性植物光ー光合成曲線。光合成速度と光合成産物に関する計算。光補償点と植物の生育に関する論述。       |
| 4  | 生態     | 個体群・生物群集     | 知識問題・計算問題・論述問題<br>100・60・40・140字 | やや難 | 密度効果、生態的地位に関する穴埋め。標識再捕法による個体群密度の計算。バッタの群生相・適応度・標識再捕法・フィンチのくちばしの形質置換に関する論述。 |

## 〈学習対策〉

標準的でオーソドックスな問題がほとんど。やるべきことをしっかりやれば高得点が期待できる問題構成。過去に出題のあった内容が繰り返し出題される傾向がある。対策は教科書の内容と過去問を徹底的に学習すること。教科書は「参考」「コラム」などの細かな内容も丁寧に理解しておく必要がある。論述量が多いので、50～100字程度の論述答案を書く訓練を、早い時期から練習しておきたい。論述内容は知識型が多い。実験問題は多くはないが、出題されないわけではないことは留意しておきたい。